

高齢社会NGO連携協議会

2024年度事業計画

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1. 政策提言及びそのための調査事業

(1) 高連協の掲げる理念を社会に実現するため、必要となる政策を政策立案当局、関係組織及び一般市民に対し提言する。

当年度は、日本老年医学会と新たに連携し、以下のシンポジウムの中で、高連協の取り組み及び考え方を報告し、より良い高齢社会の在り方、高齢期の生き方を広く提言する。

■第66回日本老年医学会学術集会

日時：2024年6月13日（木）～6月15日（土）

場所：ウインクあいち（愛知県名古屋市）

上記集会のプログラムのうち、6月13日（木）8:40～10:10（90分）のセッションを日本老年医学会と共催して実施する。

シンポジウム題名 「老年医学の成果の社会実装をめざして」

（日本老年医学会学術集会 依頼資料より）

第66回日本老年医学会学術集会 シンポジウム セッションリスト案

セッション： シンポジウム「老年医学の成果の社会実装をめざして」（共催：高齢社会NGO連携協議会）

日時： 2024年6月13日（木） 8:40～10:10（90分）

会場： 第1会場（ウインクあいち 2F 大ホール）

■登壇者（演者は予定）

役割	発表順	氏名	ご所属	発表時間	質疑時間	総合討論	
座長		荒井 秀典	国立長寿医療研究センター	5分	イントロダクション (セッション冒頭)	なし	
		大内 尉義	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	5分	まとめ (セッション最後)		
演者	1	演題名： 高齢者の定義—エイジフリー社会をめざして（仮） 大内 尉義	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	15分	5分		
	2	演題名： フレイル対策へのポピュレーションアプローチ（仮） 飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構	15分	5分		
	3	演題名： 日本老年医学会の役割（仮） 神崎 恒一	杏林大学医学部 高齢医学、日本老年医学会理事長	15分	5分		
	4	演題名： 高齢社会と NPO・NGO の役割 清水 肇子	高齢社会NGO連携協議会	15分	5分		
				90分			

■シンポジウム骨子

共通テーマ「今後の超高齢社会を明るく活動的にするための活動をどう進めていくか」

(2) 高連協の理念実現及び高連協の活動発信を目的に、当年度調査研究事業として会員団体を通じたオンラインアンケートを活用した提案・提言を新たに実施する。実施時期及びアンケートテーマは、年度後半を目途に、社会の状況を踏まえて役員会で相談、決定する。

・6月開催の学術集会との共催事業、子ども子育てなど時流を鑑み高連協として会員団体及びその関係組織も含めたアンケート調査から提案・提言に繋げる。

2. 手挙げ事業

いきがい・助け合いオンラインフェスタ2024（予定）

公益財団法人さわやか福祉財団

3. 広報事業

当年度実施する事業及び会員団体が行う活動を、ホームページ等で発信する。

4. その他

高連協25周年となるため、政策提言の場を含めた記念行事の可能性を検討する。

行事開催の場合の内容及び時期は役員会にて検討し、後日通知とする。

参考) 1998年10月 「高齢者年 NGO 連絡協議会」発足

1999年 2001年ボランティア国際年推進協議会に参加し、高連協として「高齢者憲章」を発表

2000年6月 「高齢社会 NGO 連携協議会」に改組